

課題名 新たな特産品目の生産振興とスマート農業技術の活用による安定生産	需要に応える ものづくり	京都乙訓農業改良普及センター
(1)普及指導事項（評価対象） ①京おくら出荷部会の生産技術の向上 ②環境測定装置を活用した施設重点品目の栽培技術の向上	(2)普及指導対象 ①京おくら出荷部会 17 名（京都市、長岡京市、大山崎町） ②勸修寺樹園地組合ブドウ部会 18 戸（モデル農家 1 戸）【R3】 山科区トマト生産者 1 戸【R3】 西京区大原野イチゴ生産者 2 戸【R4～5】	
(3)活動内容と成果 ① 京おくら出荷部会の生産技術の向上 京おくらの生産の安定・拡大を目的に、部会で作型拡大（4～6月播種）と収穫作業省力化（低木栽培）の現地実証に取り組み、個別巡回指導を行った。JA 京都中央ら関係機関と連携して京おくら出荷部会の活動を支援してきた結果、出荷量は 13.2 t、栽培面積は 73a、新規生産者数は令和 3～5 年の 3 年間で延べ 9 名と、全て目標を大きく上回り達成した。さらに、オクラを地域の新たな特産品に育成するため、産地戦略を策定し生産拡大を図ることとなった。 ② 環境測定装置を活用した施設重点品目の栽培技術の向上 施設栽培において環境測定の手法と活用のノウハウが現場にないため、管内の施設重点品目（ブドウ、トマト、イチゴ）を対象に、環境測定装置を設置し、施設内環境の見える化と栽培改善に向けた環境測定データ活用（温度・土壌水分等）について伴走支援した結果、換気や遮光など適宜調整しながら、栽培環境の最適化に努めることで、収量や品質の向上につながった。		
(4)コメント	(5)普及指導計画への反映状況、今後の活動等	
<要約> ① 京おくら出荷部会の生産技術の向上 作型拡大や収穫作業省力化に向けた技術確立及び普及、JA と連携した出荷部会の育成等、産地ニーズに的確に対応できた課題設定と活動内容であった。このような効果的なねらいと働きかけにより、出荷量が増加するなど目標を上回り達成できたことに対し高く評価する。 部会人数の減少に対するフォローや解消、ブランド化に向けた品質管理や安定供給等の課題に取り組んでいただき、さらなる生産者・生産量・売上の増加による産地拡大と継続性に留意した活動をしてほしい。	① 京おくら出荷部会の生産技術の向上 京おくらの近郷産地としての地位を確立するため、令和 6～8 年に普及計画重点課題を設定し、生産技術の向上と部会活動の支援に継続して取り組みます。さらに、京おくらの産地化を加速するため、国の「グリーンな栽培体系への転換サポート事業」を活用することとし、関係機関（JA 京都中央・京都市等）で「京おくら技術者会議」を立ち上げ、戦略的に京おくらの産地づくりに継続して取り組みます。	

- ② 環境測定装置を活用した施設重点品目の栽培技術の向上
環境測定装置を活用した施設内環境の測定手法の確立やデータの見える化により、生産者による栽培環境への理解が深まり、品質の向上を図れたことは評価する。
持続的な活動をするためには、施設内環境のデータ収集の継続は必要である。今後の栽培管理判断の精度が高まっていくと考えられる。府内全域でデータを共有して、早い段階でビックデータを貯めて欲しい。また、データの蓄積については他府県からの情報収集なども必要かもしれない。
目標設定がそもそもどうだったのか。対象戸数が限定的であり、栽培農家全体が本取組の成果を共有できるかが課題。
京都府全体で、京都独自のイチゴのブランド化に取り組むのも面白い。

(課題全体)

技術とコーディネートの両輪での実施による成果導出が評価できる。農業者の意識改革や動機付けにつながっていくような支援となっている。
ブランド産地としての確立には、面積拡大にむけた長期戦略が求められる。経営指標の更新や栽培環境の最適化に向けた技術指導、安定価格形成、消費者への販売促進、他産地との差別化等、引き続きの支援をお願いする。地域を超えた農業者ネットワーク形成を促進し、引き続き都市型農業の活性化に対応して欲しい。

- ② 環境測定装置を活用した施設重点品目の栽培技術の向上
本取組の成果（環境測定装置の選択・設置、栽培環境データの見える化・栽培改善への活用）を、地域の生産部会や中核的な担い手農家等へ情報提供・伴走支援することで、スマート農業技術（特に、ICTによる環境データの見える化と栽培改善への活用）の普及を図ります。なお、イチゴでは、生産者の要望で対象農家を拡大しながら、環境データのフル活用に向けて、令和6年度調査研究で「第一腋花房分化に応じた能動的な環境制御による収量安定化」に取り組みます。
また、令和5年度から、京都府全体でイチゴ生産振興に向け「京都いちごプロジェクト」を立ち上げ、普及センターにおいてもプロジェクトの方向性について農産課らとともに検討しているところです。

(課題全体)

農業現場の課題解決に向けて、技術の実証・普及を推進するとともに、農業者が主体となった具体策の検討や実践につながるよう、問題発見や課題整理等の相談・提案に係るコーディネート機能も発揮しながら、引き続き農業者等の伴走支援に努めます。
京おくらの近郷産地としての地位を確立するため、普及計画重点課題（令和6～8年）を設定し、関係機関で「京おくら技術者会議」を立ち上げ、戦略的に京おくらの産地づくりに継続して取り組みます。
地域を超えた農業者ネットワーク形成の促進や都市型農業の活性化については、各普及センターで蓄積したスマート農業技術のデータを共有・活用しながら、消費地が近く観光農業を志向する若い農業者等が多い当管内にとって親和性の高い、イチゴを中心に普及指導を展開したいと考えます。